

情報交差点・心と心の交わり

あじま〜

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

中学生が大宜味を元気に！

大宜味中 1年生 シークワサー酢SKS+S発表記者会見



大宜味中学校 1年生が総合の授業を活用し、地域の特産物を活かした特産品の開発に、コープおきなわ、JAおきなわ、有限会社北琉興産、総合包装株式会社、株式会社たまぐすくと連携して取り組み、シークワサーの酢飲料「シークワサー酢SKS+S」が完成しました。

1月23日（火）、沖縄県庁において、平成29年度大宜味中学校発「シークワサー酢SKS+S」発表記者会見を行いました。

今年度初めて取り組んだ、県内企業と連携した商品開発。最初は自分の考えを発表することも恥ずかしがっていた生徒たちも商品開発の授業を通して自分たちの意見を言えるようになり、自信をつけるようになりました。

記者会見では商品の概要や取り組み内容を説明し、テレビや新聞社の記者からの質問に答えました。どんな質問が来るかドキドキしていた生徒たちですが、挙手をして自ら積極的に質問に応じ、一人一人の成長ぶりに驚かされました。

記者会見と言う場で自分たちで作った商品を自分たちで発表する、貴重な体験をすることができました。



最初に飲んでほしいのはやっぱり地域の人たちだから…
大宜味村産業まつりでシークワーサー酢 SKS+S 先行販売

1月20日（土）、21日（日）に開催された大宜味村産業まつりに
 おいて、大宜味中学校1年生が商品開発した「シークワーサー酢SKS+S」の先行販売が行われました。

21日（日）には、自分たちで作った自慢のシークワーサー酢をい
 ち早く村民の方たちへ知らせることを目的に、開発に取り組んだ1年
 生が時間帯で3班に分かれて実演販売に挑戦。



アイモコさんも試飲♪

他のテナントにも売り込み

直接話して商品を伝えます



攻めの販売。売り込みに行く！



お客さんにどんどんすすめます。



舞台に出て、試飲会開始♪
 多くの方が喜んでくれました。

近くを通ったお客さんを呼びとめたり、カキやホタテを待っている
 行列のお客さんに声をかけたり、たくさんの方に試飲をしてもら
 うと、次は自分たちで作ったPOPを持ちながら、会場内を歩きそ
 の場で試飲、販売をするなど、時間が経つにつれ、自分たちで考え、
 行動しました。

午前中はアイモコさんのラジオ番組にも出演し、ラジオでみなさん
 にシークワーサー酢を紹介。午後にはステージの前で試飲会+販
 売も行うなど積極的に商品をア
 ピールしました。

販売に参加した松田鈴さんは
 「たくさんの方が買ってくれたの
 で良かった。」と、宮城妃奈野さん
 は「売るのは大変だった。会
 場を歩いて売りに行った。

結構売れたので良かった。」
 と疲れながらも喜びの笑顔
 を見せてくれました。

当初、産業まつり2日で
 100本の売り上げを目標に
 していましたが、土曜日だ
 けでも174本、中学生が参
 加した日曜日は385本を売り上げ、一時在庫が切れてしまうほどの
 大盛況となりました。



強力な助っ人きたる



宮城姉妹も応援に♡

大宜味産 シークワーサー 100% 使用

シークワーサー酢
SKS+S
 Shi-Kuwa-Sa+Su



シークワーサー酢 SKS+S を詳しく紹介♪

5倍希釈用なので
 1本から5リットル作れます。

500ml ペットボトル
 10本分！

希釈して飲むと
 1リットル240円換算で
 かなり割安になります。

飲むだけでなく、ゼリーや
 サワーやシェイクにも使えます。
 ヨーグルトにも最適！

その他、色々自分にあった
 利用法を楽しめます！

定価：1200円（税別）

売上1本につき10円が大宜味中学校へ寄附され、
 子ども達の活動支援にあてられます。

ただいま道の駅おおぎみにて販売中！生徒たちの力作をぜひお試しください！

大宜味中の生徒が一生懸命作った「シークワーサー酢をSKS+S」。

企画書作成から始まり、メーカーさんとの商談。小さい子
 からお年寄りまで多くの人に好まれる味にするため、何度も味見や、
 アンケートを繰り返しました。ネーミングやパッケージデザインを
 決める時も、みんなの意見を合わせるのに苦労しました。すべて子
 ども達が自分たちで考え、決めることを繰り返してできた商品です。

シークワーサー酢SKS+Sには地域を元気にしたい、大宜味村、
 シークワーサーをみんなに知ってほしいという子ども達のたくさん
 の思いが詰まっています。

原料に使われているシークワーサーは100%大宜味産。シークワーサー果汁で作られた果実酢にシーク
 ワーサーの果汁を加えているため、1本（ストレート）につき約35%のシークワーサー果汁が含ま

れており、シークワーサーの消費拡大にもつながります。作った中学生も飲んだ村民も、シーク
 ワーサーを生産している農家さんもみんなが元気に幸せになる商品となりました。



大宜味村の自慢は？企画書づくり



メーカーさんに思いを伝える商談



何度も繰り返された試飲

新緑の塩屋湾を走ろう！

第40回 塩屋湾一周トリムマラソン大会参加者募集



2018年4月15日（日）開催

- ★16.7km（大保ダム周回コース）
 - ★9km（塩屋湾一周コース）
 - 3km（塩屋湾折り返し 屋古コース）
- ★高校生以上
- 1歳以上

2月中旬より申込受付開始予定 ※詳細は村HPなどでお知らせします

お問い合わせ：塩屋湾一周トリムマラソン大会事務局

教育委員会内 TEL0980-44-3006 担当：大宜見まで

平成30年度 大宜味村教育委員会 賃金職員募集のお知らせ

職 種 学校用務員、学習支援員、特別教育支援員、地域支援員
幼稚園代替教諭、幼稚園預かり保育、生涯学習コーディネーター

- 提出書類
- ① 申込書（所定の用紙）
 - ② 自筆履歴書
 - ③ 健康診断書
 - ④ 住民票抄本
 - ⑤ 納税証明書
 - ⑥ 作文 400字詰め原稿用紙2枚以内（応募の動機）

申込期間 平成30年2月13日（火）～2月28日（水）午後5時まで（厳守）

提出先 大宜味村教育委員会（郵送も可 2月28日必着）

面接日 平成30年3月3日（土）

問い合わせ 大宜味村教育委員会 ☎44-3006（担当：平良・島袋）

平成30年大宜味村成人式



1月4日（木）、大宜味村農村改善センターにおいて、平成30年大宜味村成人式が行われました。今年の成人者は28名、そのうち23名が式典に出席しました。

成人者はそれぞれの晴れ着を身にまとい、親や来場者の方々へ立派に成長した姿を披露しました。新成人を代表して仲井間宗仁さんが挨拶を行ないました。仲井間さんは「ふるさと大宜味村を自分たちの誇りとして心に刻み、後輩たちの見本になるような社会人を目指していくことを誓います」と力強いあいさつをしました。



成人者代表：仲井間宗仁さん

式典後には青年会による激励交歓会が行われました。今回の激励交歓会では、各校区の成人者や保護者による飛び入りの余興も行なわれ、旧友との再会を懐かしむ激励交歓会となりました。



宮城村長から記念品贈呈

式典後には青年会による激励交歓会が行われました。今回の激励交歓会では、各校区の成人者や保護者による飛び入りの余興も行なわれ、旧友との再会を懐かしむ激励交歓会となりました。



深読み大宜味村史 1 2 田港 1

大宜味村史は昭和 42（1967）年に村史編集委員会が発足し、委員長宮里金次郎、委員に山川元康、大山茂一、宮城福市、親川富二、宮城倉栄、宮城倉啓、大嶺福一、大城真秀、編集担当として山川岩美（編集責任者）、金城功、宮城長信、大城将保、平良幸七（写真）の諸先輩方によって編まれ、12年の歳月をかけて昭和 53（1978）年に資料編、同 54（1979）年に通史が発刊されている。

通史・資料編を合わせて 1,100 余ページにも上る村史編さんの基になった資料をめぐってみると、本文では削られた部分がほとんどであるが、興味深いものが沢山あり、順次紹介していきたいと思う。なお、当時の言い回しや仮名づかいに味わいがあるので、出来るだけ原文通りとし、判読不能の文字は□に置き換えた。必要に応じて（）内に補足を加えた。田港での聞き取り調査のメモを二回にわたって紹介する。

1967年8月24日 午後3時 出席者：当山全吉、前田福藏、山城兼三、当山全正、前田福栄、松本嘉吉

部落の発生 根謝銘屋 孝子田港乙樽が初まると伝えられる

当家根謝銘殿内先祖思徳金 具志頭王子尚巴志王三子の

聳兼松金一眞三郎一宮里

思五郎金一川田

思徳金一田港——兼松金一根ザン屋 二男東リ 三男仲門

眞加戸金一宮里子嫁 眞三郎金

眞玉津金一金城掟司嫁 思亀寿金一仲門

眞口戸金一伯子 思五郎金養子より川田へ

思徳金は4子を引連れ根謝銘城の叔母の許に隠れ後田港に村立ちしたり

サンタキ屋敷跡 隣り桃原家門中 五月九月正月年三回根ザン屋、ダチ川三ヶ所拝む

田港の主…ミミン主の物語り 長男二男の間柄であった

ウバシ又開墾（喜） 清次郎開墾 山田開墾（大工又） 三〇年開墾 村有地になる

樟のう製造 白石、清次郎 2人が初まる 四ヶ有地 四ヶが上納取立て居ったが村有地となった

田港パーク 戦世…合口で支えて 虫がぼろぼろ落ちるのはハチヤ米を食べて居るとの事が伝えられる

島津 1時4人 死亡4人と云はれた 戦崎 大保の岬 天（鉄）砲屋…苗代の番

メーデー（目洗）…（墓地）と天（鉄）砲屋との物語り 上神一人骨…共同墓地

寄留人 当山…現全吉 4代目 元護得久

断髪令 85年～75年前 10才頃に初めてやった 山城兼三（85才）小学校2年

陳情 支那派遣一大保真喜志 塩屋の徳元屋の船が陳情 二男宮城庄造96才

クンチャー坊主 日清戦争 部落常会で切る切らぬの大けんかであった

土地割 屋原（近方）大原（遠方） 竿入 仕明地 金持ちの土地

公地 ウッチ地 田港村 山川ウッチ（大工又にあった田）

土地 田 10人 10マルキー180坪 畑 大分けして〇〇人持て

上納 8月10日頃 穀払い 家畜の売払一米で支払 運天…蓄倉 呉我…上持ち屋

上納 ウッキン屋敷（今の我ナハ） 仲尾一カンテナ港

1日5銭 17才…9銭～8銭 嘉陽 前田福藏86才 米3斗入1俵 人身売買

原山勝負 竹馬…子供の時まで 仲門、山根、倉根3家

四ヶ札 米5合、3合、お金5銭 牛札 2ツ有った 字札 2銭 島札 1銭

コレラ 今から72年前、明治29年頃 根ロメの親川であったが后で塩屋の佐場崎に埋めた。

クルラン医者に見せたら薬を飲まして死亡させると云って逃げかくれた。山へ家の床下へ逃げかくれて居った（1夜4人 死亡7人） 巡査が調べに来て15才から上待機して塩屋迄ハレーで連れて行った。病人の家は皆んなが番して出さなかった。備蓄米を炊き出してやって居った。酒で消毒液首から下げて居った ウンガミ行事中止した処か□□行事のない処は何も起こらなかった

世界看病 デング熱



村史編さんだより

第82号 2018年2月1日 大宜味村村史編纂係 44-8009 Eメール:sonshi@vill.ogimi.okinawa.jp

第二回編纂委員会及び民俗専門部会を開催



今年度第二回目となる村史編纂委員会と民俗専門部会を1月22日（月）に開催しました。今回の議題は、発刊が迫っている「民俗編」の内容最終確認及び発刊までのスケジュールの説明、次年度発刊を予定している「言語編」の進捗状況と今後の作業工程、新たに動き出す「人と自然編」について、次年度の大まかな作業計画、専門部会委員の人選などを議論しました。

なお、「言語編」については、各字の言語（方言）を詳細に収録する目的で『喜如嘉誌』を参考に、800語以上の調査を各区に依頼しております。大変な作業ではありますが、後世に残す重要な記録となりますので、村民皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします。

3月には「人と自然編」の専門部会を立上げ、やんばるの豊かな自然との関わりの中で営まれてきた大宜味村の歴史を、ていねいに拾い集め記録化していく作業として、各区での調査が動き出す予定ですので、引き続きご理解ご協力を重ねてお願いします。

先人の足跡をたどって… 豊見城市から疎開地探訪

1月28日（日）、豊見城市から「ヤンバル疎開地（大宜味村）を訪ねるツアー」の皆さん25名が来訪しました。この事業は、豊見城市教育委員会の企画により、平成27年度から実施されているもので、大宜味村史もお手伝いをさせていただいています。第一回は謝名城、第二回は喜如嘉で、今回の田嘉里訪問は最終企画となります。

田嘉里ではクマーリという山に、30名ぐらい収容できる避難小屋が10棟も建っていました。そこでは米軍の機銃により小屋が燃えて疎開民の犠牲者も出ていることもあり、ぜひ現地まで参加者を案内したいということでしたが、鬱蒼と草木が茂る急な斜面にはばまれ、叶いませんでした。

代りに、第1回目から訪ねている謝名城山中の避難小屋が建っていた場所を訪ね、豊見城市教育委員会の職員が当時の様子を説明した後、『大宜味村史 戦争証言集』の中から、疎開者の様子や食料のことなどについてお話しし、当時の様子に思いを馳せ、全員で手を合わせました。

午後は、田嘉里公民館に移動し、平良蔵幸・サネ夫妻、山城栄三さん、仲原永有さんらから、一つの家にも5、6世帯が暮らしていたという当時の田嘉里の様子を、子供同士遊んだ思い出などを交えお話ししていただきました。

600名の人口が疎開者の受け入れで1000名以上に膨れ上がっていたという当時、実際に田嘉里に疎開していたという男性の参加者から、「70年ぶりに来ることができ感無量です。当時の会計さんにとってもお世話になったので、健在であればお会いしてお礼を言いたい」と申し出があり、いろいろ話を聞いてみると、サネさんの兄光重さん（故人）であることが分かり、70年以上の時を隔てて繋がった不思議な縁に、一同、胸が熱くなる思いでした。

豊見城市教育委員会の皆さんは、第1回目の企画から、下調べや訪問地との交渉、現地の草刈りなどで何度も大宜味村に足を運び、綿密な準備を行っており、今回も、謝名城の避難小屋跡までの道は丁寧に草刈りがなされ、頭の下がる思いでした。

これまでの疎開地訪問の様子は、「戦争体験等映像化事業」として記録に残されるということです。



こんな山の中で何か月も言葉少なに説明に聞き入る参加者



当時の記憶が語られさまさまな断片がつながってゆく



「しまふとうば」ぬくとう 24



うみがーみー

「シークワサー酢」

大宜味中1年生は今年度の総合の時間に商品開発を取り入れてシークワサー酢が完成した。商品が出来た後には矢継ぎ早に、1月21日の村産業まつりでの販売体験、1月23日県庁記者室での商品の記者発表、そして1月30日には那覇市周辺コープ沖縄の6店舗での販売体験まで、生徒たちは多くの貴重な体験をしたことだと思う。

商品開発の授業の最初には「シークワサー」の意味からの導入であった。「シークワサー」は植物学的には一般的に「ヒラミレモン」とも呼ばれるが、地域の人々はあくまでも「しまふとうば・しまくとうば」にこだわった。ゴーヤーと同じように。

商品開発の授業で生徒たちは、通常の授業では経験したことのない様々なことを学んだと思う。同時に生徒たちはグループごとに、或いはクラス全員で協力しながら頑張ってきたことだろう。

この一年間商品開発の授業に丁寧に誠意を持って協力して頂いたコープ沖縄の石原氏を始め数社の事業所の方々から大きな力を頂いた。

そして、商品開発の授業に携わった先生方や教育委員会の担当者にとっては、授業の多くが未経験のことであり、戸惑いや不安、大きな苦労があった事は容易に想像できる。ご苦労様と労いたい。

義務教育の究極の目的が実社会に対応できる人間の育成であることを思えば、実社会（民間）での厳しい側面も指導することは当然のことであるし、教育に関わる人々は民間的なものの考え方・発想・行動力をも持ち合わせるべきであることを再認識させられた。

生徒たちが開発した「シークワサー酢」は、生徒たちの手から離れて我々大人にその未来を託された。

生徒たちが卒業した後もその商品が店頭に並び、「自分たちが開発した商品だ」と胸を張れる時が来るように、「シークワサー酢」を成長させるべく多くの大人の知恵を集め大宜味村の特産品の一つに加わることが出来ることを願う。



今月の生きもの

カンヒザクラ：バラ科



寒い日が続きますね～。沖縄に季節がやってきました。
 ど～も♪ 私、カンヒザクラです。ヒカンザクラと呼ばれる時もありますが、内地のヒガンザクラと間違えないように、この名前と呼んだ方がいいかも。名前の由来は「寒のころに緋色の花をつける桜」から来ています。内地のサクラのようなはかなさはないけれど、冬の寒空にパッと彩りを与え、みんなの心にも花を咲かせられたらいいなと思います。

2月の行事予定

- | | | |
|---------------------|---|------------------------|
| 1日（木）区長会 | 2月6日 | 9日（金）「体験の翼」西会津訪問 ～ 12日 |
| 4日（日）大宜味村教育の日 |  | 11日（日）建国記念日 |
| 小中一斉授業参観日 | 海苔の日 | 12日（月）振替休日 |
| 大宜味村学力向上実践報告会 | | 17日（土）わんぱく体験団⑥修了式 |
| 大小きらめき発表会・大中くがに一発表会 | | 18日（日）生涯学習講座 |
| 5日（月）小中振替休日 | | 23日（金）お別れ遠足（幼） |
| 6日（火）「体験の翼」事前学習会⑤ | | 27日（火）お別れ遠足（喜保） |

目まぐるしく始まった2018年。猫犬のように駆け回っています。1日1日を大事に過ごしたいと思う心とは裏腹に時間に追われる日々。ちょっと止まって、少し黙って恵方巻き食べて今年の福をたくさん呼び寄せたいと思います。